

「執筆要項」

1. 原稿は、原則としてWord(Windows版)を使用し、原稿用紙サイズはA4版縦にて、横書きとする。
2. 余白：上3cm；下2cm；左右各2cmとする。
3. 行数：1ページ当たり45行を厳守のこと。
4. 原稿枚数：以下の原稿枚数は、図・表・写真等を含めての枚数であり、すべての著作で偶数ページ終了を厳守すること。奇数ページは受理しない。

論文：8枚～16枚； 研究ノート：4枚～8枚
書評：2枚； その他：2枚～6枚

5. タイトル（表題）：和文タイトルは14ポイントでMS明朝体；和文サブタイトルは11ポイントでCentury；英文サブタイトルは10.5ポイントでCentury，表題の後は1行あけること。
6. 氏名：和文は11ポイントでMS明朝（右寄せ）
⇒例：観光太郎*（氏名には右肩に「*」を付すこと）

：英文は11ポイントでCentury（右寄せ）
⇒例：Taro KANKO

氏名に付した「*」は1頁目の下2行を用い1行は本文との境界線に用い、2行目は執筆者の所属（10ポイントでMS明朝体）を表記する。また、執筆者が複数の場合には執筆者ごとに「*」「**」「***」・・・を付し、執筆者ごとに所属等を表記すること。氏名の後は1行あけること。

なお、欧文による執筆の場合は、題名・執筆者名・要約・キーワードを英文・和文の順で記載し、書式は和文に従う。

7. 要約：「論文」は必ず英文要約を記載すること。9ポイントCenturyで100から110ワード以内を厳守のこと。また、英文要約の書き出し
⇒例：Abstract：英文要約書き出し・・・
8. キーワード：キーワードは、和文（英文）の順で併記し、3～5つ以内を以下のように表記すること。

⇒例：キーワード（Keywords）：観光（Tourism）（和文は10ポイント明朝；英文は10ポイントCenturyを使用のこと。）キーワードの後は1行あけること。

9. 本文：本文から2段組。10.5ポイントMS明朝で1段の文字数は23文字（行数は45行）
10. 本文の見出し：

章⇒例：1. 2. 3.（和文はMS明朝；数字はCentury；10.5ポイントを使用）

例：1. はじめに 節⇒1) 2) 3)（和文は

MS明朝；数字はCentury；10.5ポイントを使用）

例：1) 観光の歴史 項⇒（1）（2）（3）
（和文はMS明朝；数字はCentury；10.5ポイントを使用）

11. 図・表：図表とも通し番号を付すこと。
例⇒図は図の下に、図-1 図-2等々と表記する。（10ポイントでMS明朝とCenturyを使用）
例⇒表は表の上に表-1表-2等々と表記する。
図・表は原則として、本文1段にあるいは2段を用いて直接本文中に挿入すること。また、別紙に印刷したものを本文に貼り付ける場合には、1段内にあるいは2段内に収まるように縮小・拡大を、投稿者自身が行い、本文とともに添付し提出すること（但し、図・表の入る部分にはあらかじめ本文内に、例えば、図-1観光地のように印字し、本文に図・表の入る部分の余白を空けておくこと）。

12. 注：注は文献等の直接引用を除き、最小限に抑えることとする。注を付す場合には9ポイントで和文はMS明朝；数字・英文はCenturyで本文終了後に通し番号で、以下の例に従って、簡潔に表記すること。

例⇒注)

- 1) 観光（1999）2.
- 2) 観光（2001）10-15.
- 3) Kanko（1977）Chap.2参照.

13. 参考文献：9ポイント（和文はMS明朝；数字・英文はCenturyを使用のこと）。参考文献は、注の後に、一括して、著者の姓のアルファベット順に記載すること。

例⇒参考文献

- 1) Kanko.T.（1976）On the Tourism, *Journal of Tourism*,(2),1-10.
- 2) Kanko.T.（1989）*Tourism*.Japan Publishing, Tokyo.
- 3) 観光太郎（1999）『総合観光学入門』観光社
- 4) 観光太郎（2000）「観光について」『総合観光学会誌』第1号15-25.
- 5) 観光太郎・観光学（1998）「観光の文化的効果について」『文化観光学会誌』第3巻第3号 185-200.

また、同一筆者の場合は、発行・発表が若い順に記載のこと。

付則：この規定は、令和元年11月16日に一部改訂し、施行する。